

平成30年度 第1回壬生町総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成31年2月27日(水) 午前3時から
- 2 場 所 壬生町役場(ひばり館C会議室)
- 3 出席者 町長 小菅 一弥
教育長 田村 幸一
委員 池 節子
委員 藍田 収
委員 本島 博久
委員 大久保 信男
- 4 出席者及び傍聴人を除くほか、会議に出席した者の氏名
副町長 櫻井 康雄
総務部長 出井 透
総務課長 糸川 延夫
こども未来課長 臼井 優子
教育次長 渡辺 好央
学校教育課長 赤羽根 和男
学校教育課課長補佐兼指導主事 高橋 恵子
学校教育課課長補佐兼学校教育係長 外丸 博
学校教育課主幹兼庶務係長 黒須 さわ子
学校教育課庶務係 舛田 亜友美
- 5 欠席者 民生部長 神長 利雄
- 6 傍聴人 なし
- 7 協議事項
 - (1) 壬生型幼保小中高連携一貫教育「みぶっ子あすなろプロジェクト」について
 - (2) 教職員の働き方改革について
 - ①「壬生町立小中学校教職員の働き方改革推進基本方針」(案)について
 - ②「壬生町立学校における部活動の在り方に関する方針」(案)について
 - ③部活動指導員の導入について
 - ④校務支援ソフトの導入について
 - ⑤校内インターフォンの設置について
- 8 議事
【開会】(午後3時)
教育次長
平成30年度第1回壬生町総合教育会議を開催いたします。初めに、小菅町長よりご挨拶いただきます。

町長

大変お忙しい中、お集りいただきありがとうございます。

31年度予算も3月1日から始まる議会で承認されれば、新しい予算で新しい年度を迎えます。教育関係の予算も例年通りしっかりと財源の確保をいたしました。教育に要する費用・予算をどれだけ確保できるかが、これからの栃木県においての壬生の在り方なのではないかと思っています。ただ、教育予算があっても方針がしっかりしていないと意味がありませんので、町と教育委員会が一体となって、壬生の子どもたちを育てていく方針を本日の会議で協議していきたいと思います。皆様それぞれの立場でお考えもあると思いますので、忌憚のないご意見をいただきまして、より高いレベルの教育を目指していきたいと思います。

教育次長

それでは、運営要綱第5条により町長が議長となりますので、会議の進行をお願いいたします。なお、この会議は議事録を作成し、原則公開となりますので、発言の際は挙手をお願いいたします。

町長

それでは、「壬生型幼保小中高連携一貫教育『みぶっ子あすなろプロジェクト』について」、事務局より説明をお願いいたします。

高橋指導主事

資料により『壬生型幼保小中高連携一貫教育「みぶっ子あすなろプロジェクト」について』を説明。

学校教育課長

ご説明しましたプロジェクトは、幼保小中高で異なる設置者であっても共通した教育目標や共通した目指す子ども像を定めて、各学校や各園の教育目標との整合性を図り、幼保小中高が連携し、一貫して諸問題に取り組んでいくものです。そこで幼稚園、保育園等との連携をより一層進めるため、幼稚園等と調整を図り、共通した教育目標等を設定するための協力を担当課にお願いしたいと思います。

町長

施設一体型であれば連携は可能であるが、分離型の中で連携を求めていくのは大変な苦労があると思います。これについて、幼稚園・保育園の担当課である、こども未来課長はどのように考えていますか。

こども未来課長

小1プロブレムなどの課題を解決するためには、共通した教育目標等を設定し、連携を図ることが重要だと思いますので、みぶっ子あすなろプロジェクトに基づく連携が

図れるように幼稚園等に協力をお願いしたいと思います。

町長

それでは、皆様から忌憚のない意見をいただいて、担当課が質問に答えることにより同じ方向にベクトルを合わせていきたいと思います。

大久保委員

壬生の教育・保育に携わる者が一つの方向に向かって行くというのは良いことだと思います。

今年度は幼稚園等と学校との連携が今までより強くなりまして、幼稚園の先生が学校の授業を見学する、学校の先生が幼稚園等に保育の風景を見に来るといった交流がありました。

最初は学校・幼稚園・保育園間の考え方で様々な問題が出てくるとは思いますが、それについて話し合いを持つことで連携を深めていけるとは思いますので、まずはそこから始めて、次のステップへと進めたら良いと思います。

町長

現在、公立保育園を減らしている関係上、私立保育園が中心となってきていますが、支障はあるのでしょうか。

大久保委員

園によって建学の精神が異なりますが、最終的には子どもの健やかな成長を願う点では変わりませんから、ある程度の整合性は取れると思います。

池委員

幼保小中高連携ということで、壬生町は画期的なことをすると感じました。

学校と幼稚園・保育園間の交流がそれぞれあるとのことでしたが、それを取りまとめて一つの形にしていくには、教育委員会との連携がなければ成り立ちませんので、連携の在り方を構築していくことが、これから必要であると考えます。

今、様々な問題が子どもたちに起きていて、いじめや虐待など、福祉的な面も考えると、こども未来課と教育委員会そして関係各課との連携は一層重要になります。

また、連携し一歩踏み出すための保障の一つとして、予算を付けていただくことも必要かと思えます。

大久保委員

予算について、今年度から町から園にALTを派遣して、英語教育がはじまりました。子どもたちはとても楽しみにしていますので、回数を増やせるよう力を入れていただければと思います。

藍田委員

小中の連携と比べて高等学校との連携が十分ではありません。壬生高等学校とは、現在ボランティア関係で繋がっているが、例えば「みぶっ子あすなろプロジェクト」の目標の中に『夢と志をもつ』とあります。具体的には中学生を対象にした『夢と志のある人づくり講演会』を行っており、中学生の感想も良いものがある。壬生高校の生徒も一緒に講演会を聴いても良いと思う。また、小中間でも『夢と志を持てる』ような共通した講演会があっても良い。それが本町の特色ある幼保小中高連携一貫教育に繋がっていくと思う。

町長

壬生町には一校、高校があるというのは武器になる。地元の高校という位置づけで様々な取組みをしていきたいところです。

本島委員

各市町村においては、統廃合を進めているところも多いが、壬生町においては統廃合をせず、どこの学校においても同等の教育を受けられるということをしっかりアピールしていくと良い。

その中に学力向上推進リーダーの取組みがあるが、チームの核となる先生が各校を回り、共通認識の下で、壬生町の教育の一貫性が取れるようなシステムがあると喜ばしい。

町長

学校の特色は生かしながらも、統一的な教育ができればということで、プロジェクトの現実味というのはいかがですか。あまりに高い目標で実現できないというのではプロジェクトは成り立ちませんから、現場から見てどうでしょうか。

高橋指導主事

今年度、県から2人、学力向上推進リーダーに来ていただき、町内の小学校の指導力向上を図っていただきました。

また、学力向上応援団の先生にも入っていただき、それぞれに良い所を他の学校にも波及していけるようにご尽力いただきました。

その中で、英語教育に一番力を入れ、幼稚園・保育園にALTを派遣しました。私もALTに同行し、幼稚園・保育園を回りましたが、ALTは発達段階に合わせた授業をしていました。

年度末の授業では、1対1の会話を行い、小学校のスマールトークに繋がるような体験をさせていました。これは、小・中・高と学年が上がっても、授業の導入時に生かせることであり、スマールトークが使えるようなちょっとした英会話を、周りの情報を得ながら自分の考えが表現できるようになると期待しています。

まずは英語からはじめましたが、他の教科についても同様に取り組むことができると思いますので、施設分離型であっても可能であると考えています。

教育長

壬生町では、資料にあるとおり、幼保小中高連携一貫教育が既実践されてきました。しかし、共通の目標や目指す子ども像がなく、また、幼保小中高一貫という感覚も無かったため、教員の過重労働が叫ばれる中、こういった取組みを減らすべきだという風潮も出て来ていたところでした。

しかし、非常に効果のある取組みなので、幼保小中高連携一貫教育という名称とプロジェクトの目標、更には目指す子ども像という共通認識を設定することで、教員のやる気を喚起し、その素晴らしさが再確認できると思います。

また、情報モラル関係ですが、現在、ネット依存症やゲーム依存症による小学生の不登校が全国的に問題になっています。それは、ICTの発達と親が闇雲に情報機器を子どもに与えてしまうことと関係があるので、保護者に対する教育と子どもたちに対する情報モラル教育を段階的に、且つ早期から進めていけるようになると、この問題が解決できるようになるのではないかと考えています。

町長

挑戦する部分もあるし、これを逆にうまくコントロールできれば、子どもたちをより健全に大きく成長させることができる。

担当課では、例えば10年後、15年後にここまで持っていこうというような目標値を設定しているのでしょうか。

高橋指導主事

今後、考えて参ります。

町長

池委員が携わっている睦コミュニティを、私はずっと見ていて、長年掛けてここまで来たなと感じています。年月はすごく掛かりました。志があってスタートしたが、最初はついて来られない人がいて、場所が足りなくて、と様々な問題をクリアして今を迎えていると思います。そちらを踏まえて池委員からお話いただけますか。

池委員

生涯学習の走りの頃から始めましたので、27年目になりますが、「生涯学習とは何か」ということを地域の方々に知らせることが第一でした。地域で以って自ら考え、自ら実行する、行政に頼らずに自分たちで計画していくところからスタートし、1年1年積み上げていきました。地味な努力の積み重ねで、やっと地域全体に生涯学習と言わなくても自ら生涯学習をしている人たちが多くなってきています。積み重ねの結果かと思えますし、皆さんの理解を得られない中でも信念を持ってやっていくことが大事です。今回の幼保小中高連携一貫教育についても、理解したようできて積み重ねていくのは大変ですが、連携し情報共有していくことで積み重なっていくのではないかと思います。

町長

今回の「みぶっ子あすなろプロジェクト」という名称をまずしっかり広めることが大事だと思います。その名称を聞いたら、みんなが方向性を理解するような、また、焦らず時間が掛かることを踏まえた上で浸透させていく。

そして、行政が一番苦手な縦割りを横割りにすることになりますから、障害もあると思います。

こども未来課長

連携においてはコミュニケーションを密にして、継続することが重要だと思います。また、ニーズを把握し、計画的に進めていくことも大切です。

町長

こども未来課だけではなく、他課との連携が必要になります。「みぶっ子あすなろプロジェクト」を基に、行政の縦割りシステムを変えていこうではないかという気概も一つ持っていただければと思います。他にご意見ございますか。

藍田委員

本町は古いものにも新しいものにも関心を持つユニークな町だと思います。古いものについては論語教育があるが、新しいものとして英語教育に力をいれるべきだと思います。子どもたちが英語力をつけたことを確認するには、論語教育と同様に英語検定に挑戦して成果を見ることも大事です。そのための補助も考えていただければと思います。

町長

教育の結果を実感できるシステムを作ることが大事というご意見ですが、これは皆さんご同意のことと思います。事務局においては、工夫していただきたいと思います。その他にご意見ございますか。

本島委員

壬生町には蘭学通りがあり、現在の獨協医科大学に繋がるような医療の町という歴史があります。他市町では得られない歴史や大学があることを一つの強みとして、「蘭学」を壬生の特色ある教育として色付けできたら面白いと思います。

町長

壬生町は、協調性がある中に先を見越した判断ができる町です。それが歴史として続いている。子どもたちが先人に学び、歴史をふり返るのは大切なことだと思います。今の壬生町に蘭学通りがあって、獨協医科大学が来て、おもちゃ団地ができてと、これは偶然ではなく必然であるということ、壬生の歴史から子どもたちが理解してくれればと思いますので、具体的な取組みの中に入れることを検討していただきたいと思います。

町長

それでは、次の議題「教職員の働き方改革」に移ります。

高橋指導主事

資料により「『壬生町立小中学校教職員の働き方改革推進基本方針』（案）について」を説明。

資料により「『壬生町立学校における部活動の在り方に関する方針』（案）について」を説明。

学校教育課長

資料により「部活動指導員の導入について」を説明。

学校教育係長

資料により「校務支援ソフトの導入について」を説明。

資料により「校内インターフォンの設置について」を説明。

町長

説明を聞いていると、部活動が教職員にとって過酷になっていることの裏返しだと捉えましたが、教育長いかがですか。

教育長

確かに部活動は教職員の仕事の大きな部分を占めますが、指導力向上に大きく貢献する部分もあり、教育面で子どもたちの心と体を鍛えることに非常に大きな効果があります。その教育効果の大きさから、先生方も大変熱心に取り組んでいる分野でもあります。現在、両中学校とも顧問のお手伝いとして部活動指導員を何名か活用しているが、全面的に顧問業務に取り組んでいる教員からは、指導員をつけたいという要望がありません。一つの要因として考えられるのが、部活動には授業以外で子どもたちと親密な関係を築けるメリットがあるので、全面的に手を引くべきでないという教員が考えているということが挙げられます。

町長

働き方改革案全般を一度に協議するのは難しいので、まずは「『壬生町立小中学校教職員の働き方改革推進基本方針』（案）」について、この案どおりで良いか諮りたいと思います。

池委員

何でも学校に、先生に、という傾向が強すぎる中で、改革をしていこうというのは、一歩前進だと思います。もちろん、先生各個人のご努力が必要になる改革であります

が、案として示された部分は、今後も継続して行ってほしいと思います。
また、校務支援ソフトの活用が教員の負担軽減に必要となってくるので、早く導入し、体制を整えてあげることも必要だと考えます。

藍田委員

教職員の働き方改革は、各校の取組みの確認や状況の検証が必要だと思いますが、いかがでしょうか。

教育長

検証につきましては、校務支援ソフトが導入されれば、教員一人一人の勤務時間がソフトウェア上で管理できるようになります。校長がそちらを把握できますので、負担が大きい教員の仕事の調整等が可能になります。そのような形で検証・改善ができるのではないかと思います。

町長

働き方改革は大きく意識を変えないと成し得ないことと思いますので、年数を掛けながら達成していければと思います。そのために、校務支援ソフトを導入したいということで、平成31年度の予算に計上されているということですね。
それでは、「『壬生町立小中学校教職員の働き方改革推進基本方針』（案）」についてはこの内容で決定としてよろしいでしょうか。

教育委員

（了承）

町長

それでは、「壬生町立小中学校教職員の働き方改革推進基本方針」は決定いたします。
続きまして、「『壬生町立学校における部活動の在り方に関する方針』（案）」についてご意見ございますか。

藍田委員

制度的な改革だけではなく、先生方の意識を変えることも大切だと思います。
例えば、仕事をたくさんする先生が良い先生だとする価値観も変えなければならないと思いますし、部活動であれば、あの先生についていけば絶対勝るといったことや、勝つことを前提とする指導、それも良くないのではないかと時代になってきていると思います。

従って、勤務状況や部活動指導に対する価値観を変える、といった内容を盛り込んだ方がよいのではないかと。

それから、部活動休養日とありますが、試合等もありますし、壬生だけではなく下都賀地区での共通理解がないと設定しても行き違いがあるのではないのでしょうか。他市

町の教育委員会とのやり取りはどうなっていますか。

町長

壬生町だけが部活動休養日を守って大会に臨んだ時、勝つことが目的だとした場合、他市町に勝てず、最終的に「学校が悪い」「先生が悪い」といった流れを作ってしまうことが危惧されますが、高橋指導主事はいかがですか。

高橋指導主事

こちらの部活動の在り方に関する方針は、県が示した基本方針に基づき作成しております。他市町も大きく変わらないはずです。

赤羽根課長

今の件につきましては、下都賀地区の課長会で各市町の基本方針を持ち寄りまして、擦り合わせ等を行っております。基本的に、下都賀管内では統一的な共同歩調を取ろうという考えに基づいて行っています。

町長

それでは、「『壬生町立学校における部活動の在り方に関する方針』（案）」については、こちらの内容でよろしいでしょうか。

教育委員

（了承）

町長

それでは、「壬生町立学校における部活動の在り方に関する方針」については、決定といたします。

また、「③部活動指導員の導入について」は、設置要領どおりでよろしいでしょうか。部活動の負担を減らすためですので、ご理解いただければと思います。

教育委員

（了承）

町長

それから、「④校務支援ソフトの導入について」は、先ほど説明のあったソフトを導入するという事でよろしいですね。

続いて、「⑤校内インターフォンの設置について」ですが、何かご質問はありますか。

大久保委員

設置費用が想像以上に掛かりますね。

学校教育課長

南犬飼中学校の工事費につきましては、既存のケーブルを引き直す形になりますので、経費が割高になっています。

小学校につきましては、有線ではなく、無線もしくはWi-Fiの代替措置により、事業費を抑えられないか業者と検討中です。

町長

桁が大きい事業になりますので、今後小学校については費用対効果を考えて結論を出すということで、今回はご理解いただければと思います。

それでは、協議事項全て、終了させていただきます。総括的に、言いそびれてしまったことがあればご発言いただきたい。また、行政側で説明したいことがあればお願いいたします。

大久保委員

部活動の在り方ですが、近年熱中症で倒れる生徒も多くなってきていますので、学校にミスト等を設置していただくと多少対策になるのでは。各学校で安全管理の徹底をしていただければと思います。

町長

異常気象と呼ばれていますが、これを基準として捉え、子どもたちをどう守っていくか考えなくてはいけない。要望として受け止め、研究してまいりたいと思います。

町長

それでは、よろしいでしょうか。協議事項が全て終了しましたので、私の進行も以上といたします。

教育次長

円滑な司会進行ありがとうございました。皆様から頂いたご意見は今後の取組みに活かしてまいりたいと思います。

それでは、協議事項以外に何かございましたらお願いいたします。

無いようですので、以上をもちまして平成30年度第1回総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。

【閉会】（午後4時30分）